

<平成 27 年度>

水道部の運営方針

上下水道経営課 水道保全課
給水管理課 浄水課
水道工務課
お客さまセンター

■ 基本情報 ■

<担当事務>

- (1) 上水道に関すること。
- (2) 上下水道局内の庶務の総括に関すること。

<部の職員数>H27年4月1日現在

正職員	101名
再任用職員	21名
任期付職員	-名
非常勤職員	2名
合計	124名

※他団体等への派遣職員、臨時職員を除く

■ 基本方針 ■

水道部では、“**信頼される水道 満足される水道 持続可能な水道**”の実現に向けた取り組みを着実に進め、お客さまに安全でおいしい水を安定的に供給します。

老朽化が進む水道施設の更新・改良や耐震化については、中長期的な視点に立ち、アセットマネジメントを導入しながら計画的に実施します。また、それを推し進めるために上下水道局の組織を再編し、業務効率の向上を図ります。

I 重点施策・事業

◆中宮浄水場更新事業

持続可能な水道を実現するための重点施策として、新たに建設する浄水場から平成 37 年度に給水を開始することを目標に、中宮浄水場の更新事業を進めます。

平成 27 年度から、更新事業の基礎となる基本構想策定・基本設計業務に取り組み、平成 30 年度中の業務完了をめざします。

加えて、この業務の中で、浄水処理方式や処理能力等を検討するほか、更新後のより効果的・効率的な事業運営の手法についても併せて検討します。

◆応急給水拠点の整備

大規模災害に備え、市民生活に最低限必要な水を確保し、応急的に給水ができる応急給水拠点の整備を進めます。平成 33 年度までに市内 14 施設の整備を計画しており、平成 27 年度は、11・12 箇所目となる北山配水場、鷹塚山配水場の整備に向けた実施設計を進めます。

◆老朽化した水道施設の更新・改良

老朽化した水道管の更新・改良を、耐震化及び鉛製給水管の解消とともに計画的・効率的に進めます。

また、水道施設全体の更新・改良については、アセットマネジメントを反映させた整備計画の策定に向けて取り組みます。

◆上下水道局組織の強化・充実

「上下水道事業が抱える課題に、局が一丸となって対応できる組織」「お客さまにとって便利でわかりやすく、職員にとっては業務効率の良い組織」を構築し、上下水道局組織の強化と充実を図るため、上下水道事業を一体に捉えた組織再編を行います。

なお、新たな組織体制は、新管理棟完成による上下水道事業の執務場所の統合と合わせて、平成 28 年 4 月からスタートします。

II 行政改革・業務改善

<行政改革実施プラン（前期）の改革課題>

改革課題	取り組み内容・目標
33. 技能労務職員等の配置基準の見直し	技能労務職員等が従事する業務について、行政の役割と責任やセーフティネットの確保等の視点から整理し、それを踏まえた今後の方向性について、基本的な考え方を示す。

<改革・改善サイクルに係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
漏水調査事業	漏水調査について、定点監視型の漏水調査機器の活用などにより、経費の縮減、作業効率の向上を図るが、根本的な業務のあり方についても検討を深める。

<業務改善のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
給水訓練の効率的・効果的な実施	大規模災害等危機事象に備えて重要な各種訓練のうち、個別に実施していた各団体との合同給水訓練について、実施方法の見直しを行い、各団体間の連携強化を図る。
予納金制度の見直し	工事等臨時用水道の料金未納を防ぐための予納金制度について、業務量と効果を検証し、より効率的・効果的な制度の確立を図る。
水道保全のための調査業務の見直し	小規模貯水槽の調査業務について、業務改善の観点から見直し、啓発活動を徹底する方向で整理を行い、平成 28 年度からの実施に向け、業務内容変更について周知を図る等の手続きを進める。

庁内ネットワークシステムの積極的な活用

水道部では、局内全体に関わる総合的な業務を所管するため、局内向けの周知など、庁内ネットワークシステム機能を積極的に活用し、事務の効率化を図る。また、局内でのシステムの利用促進に努め、局全体の事務の効率化に繋げる。

公用車事故防止策の継続実施

水道部では、ダンプ車や給水車など特種車両も有し、車を使用する業務が多いため、公用車事故の防止に向けて、継続的な啓発を行っていく。また、啓発がマンネリ化しないよう、工夫を凝らす。

III 予算編成・執行

◆水道事業会計は、節水機器の普及や人口減少、加えて、大口需要者の水道水利用から地下水採取への切り替えにより、給水収益の減少が続きますが、経費節減を徹底し、健全な予算編成を行いました。さらに、予算執行についても、経費削減に取り組み、健全な経営を維持します。

また、資本的収支では、建設改良費が増加しますが、自己財源を活用し、企業債発行額を抑制しながら、計画的に企業債残高の縮減を図ります。

◆下水道事業会計は、供用開始区域の拡大にもかかわらず、水需要は減少し、使用料収入の減少傾向が続きますが、経営の効率化、経費の節減に努め、一般会計からの基準外繰入金を削減した予算編成を行いました。

IV 組織運営・人材育成

- ◆本市水道事業の将来を担うエキスパート職員を、長期的視点で育成していきます。そのため、本人の意向や適性などを見極めながら、部内のジョブローテーションを活用し、若手職員の資質や能力の向上に努めます。
- ◆水道事業が、お客さまの信頼の上に成り立っていることを、全職員が再認識し、服務規律の確保を徹底していくため、コンプライアンスの向上に向けた取り組みを継続的に行っていきます。

V 広報・情報発信

- ◆安全でおいしく、安価な水道水のPR
高度浄水処理を施した安全でおいしく、しかも安価な水道水について、広くPRを図るため、市の情報提供番組で、高度浄水処理など水処理に関する特集を制作し、放送するほか、出前講座やイベントなど、様々な機会を通じて水道水に関する情報を発信します。
- ◆新組織体制に関する情報発信
平成28年4月からの新たな組織体制、上下水道の執務場所の統合にあたって、問い合わせ先や行き先等でトラブルが発生しないよう、様々な広報媒体を活用し、わかりやすく情報発信していきます。



<平成27年度完成予定 上下水道局 新管理棟>